

大津小で複式教育研究会



12月13日、大津小学校で平成25年度地域公開参観日兼豊頃町複式教育振興会研究大会が開催されました。

同小学校の研究主題は「自ら学び、自ら考える子どもの育成～育てたい力を明らかにした学習指導を通して～」とされ、今回の公開授業は、国語の授業を通じて「もっと調べてみたい」「自分でやってみたい」という心を育て、子どもたちが主体的に学習することを目標にしたもので、4クラスの授業が公開されました。

豊中地域授業参観



12月10日、豊頃中学校で地域授業参観が行われ、多くの保護者や地域住民が参加しました。2年生の授業では事前に町内の商店などで行った職業体験をもとに、スライドを使って職業体験発表を行ったほか、各学年でも、それぞれ個性豊かな授業が行われました。その後、池田警察署の方による親子学習会「サイバー防犯教室」が行われ、インターネットや携帯電話の危険性や安全な使い方について話され、参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、12月11日には、2年生を対象に豊頃町にゆかりのある浦島久さんを招いて、英語の特別授業が行われ、12月12日には3年生がこどもプラザ体育館で4～5歳の保育園児を対象に読み聞かせやゲームなど、保育実習を行いました。



親子でもちつき



12月7日、茂岩保育所で毎年恒例の『もちつきかい』が行われ、大勢の親子が集まりました。

子どもたちは小さなきねを握りしめ、元気いっぱいもちつきを楽しんでいました。

また、父母らが大きなきねで勢いよくもちをつくと、見ていた子どもたちからは歓声が上がっていました。

もちがつきあがると、親子であんこを詰めて、あんころもちを作ったり、ごまだれやきなこ、砂糖醤油を付けたりして、食べました。

自分たちが作ったつきたての餅を食べた子どもたちからは、笑みがこぼれていました。

夜空を彩るイルミネーション



12月10日、ポケットパークもいわでイルミネーション点灯式(町商工会茂岩支部主催)が行われ、集まった子どもたちは高さ8メートルを超すツリータワーがライトアップされると大きな歓声を上げていました。点灯式では、茂岩保育所の子どもたちが声を合わせてカウントダウンを行い、スイッチオンとともに暗闇に色とりどりの光が鮮やかに浮かび上がりました。また12月5日、JR豊頃駅前でもイルミネーション点灯式が行われ、飾り付けられた街路樹が通りを美しく照らしています。



▽はるにれは見ていた 広報とよころ

▽はるにれは見ていた 広報とよころ

▽はるにれは見ていた 役場だより

▽はるにれは見ていた 役場だより

ともに生きる社会の実現



11月24日、える夢館で平成25年度『豊頃町人権啓発講演会』および『豊頃町PTA連合会研究大会』並びに『とよころ町づくり講演会』が行われ、各団体やPTA関係者など多数の方が参加しました。

今年は、『一人一人が互いに尊重し合い、ともに生きる社会の実現』をテーマに『世界がもし100人の村だったら』の著者である池田香代子さんを講師に招き、『100人の村、あなたもここに生きています』を演題に講演が行われ、参加者は講師の話に聞き入っていました。

おふくろの味、全国へ



12月21日から23日にかけて、大津漁協女性部(前川京子部長)の秋サケの飯寿司「鮭飯寿司」のたる出し作業が同漁協横の加工場で行われ、ひとつひとつ丁寧に手作業でバック詰めされ、全国各地に向け発送されました。

この飯寿司はすべて女性部員による手づくりで「おふくろの味」として親しまれ、大変好評を得ています。

町内スポーツ少年団が交流



11月24日に豊頃町スポーツ少年団本部主催のスポーツ少年団交流会が開催され、町内の各スポーツ少年団員と運営協力員として少年団指導者、父母らが参加して交流を深めました。

交流会では、5種類の運動適正テストを行い、普段の少年団活動では競い合うことのない児童たちが一緒になって、各自の運動能力を測定し、昨年の自分の記録の更新を目指して頑張りました。後半は、ドッジボールを行い、白熱したゲームを楽しんでいました。

大津バスケット少年団全道大会へ



12月18日、大津バスケット少年団が町教育委員会を訪れ、11月9日～17日まで行われた第39回北海道ミニバスケットボール大会十勝地区予選大会の報告を行いました。

予選トーナメントでは、初戦の、緑丘少年団、続く芽室少年団に勝利し、決勝リーグ進出を決めました。4チームで争われた決勝リーグでは、啓西、啓北少年団に惜しくも敗れましたが、豊成少年団に勝利し、十勝地区3位で1月9日から江別市などで行われる全道大会への出場を決めました。

主将の安達悠真くんは「全道大会では、みんなが力を発揮できるようがんばります」と抱負を述べていました。

今年も大盛況！大漁まつり



12月1日、大津漁協の荷さばき所で、第10回大津大漁まつり(前川啓一実行委員長、豊頃町・浦幌町・大津地域マリビジョン協議会協賛)が開催され、新鮮な海の幸を求めて、約4,000人の買い物客が訪れました。

秋サケやシシャモ、毛ガニ、ホッキ、ツブなど大津産の魚介類を求めて多くの買い物客が売り場に詰めかけ、飛ぶように売れていました。また、秋サケ、カジカ、シシャモの各鍋や甘酒が無料で振る舞われ、訪れた買い物客の舌を楽しませていました。

当日、来場者には10周年を記念し、豊頃産の切干大根と浦幌町で加工されたデンプンが配布されました。

